

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：87106

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H05150

研究課題名(和文)日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive data collection of the cultural exchanges between Japan and Siam and its integrated study.

研究代表者

原田 あゆみ (Harada, Ayumi)

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部企画課・室長

研究者番号：20416556

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：日タイ文化交流に関する資料は、これまでさまざまなかたちで紹介されてきたものも含まれているが、本科研の特色はこうした資料を文化財として実物に即した詳細な調査を行い、美術史、歴史的評価を行ったことである。具体的にはシャム由来の工芸品、日本からシャムに伝わり権威の象徴として新たな展開を遂げた日本刀、朱印船貿易家や仏教僧の交流を通して日本に伝わった仏像や仏画、貝葉写本などである。本研究成果は報告書(141頁)等にまとめたほか、特別展「タイ～仏の国の輝き～」(九州国立博物館：2017年4月11日～6月4日、東京国立博物館：7月4日～8月27日)の図録や展示、関連シンポジウムにおいて広く一般に公開した。

研究成果の概要(英文)：The main feature of this investigation is to conduct a detailed survey and evaluation from the viewpoint of art history on actual cultural properties, which includes materials related to cultural exchange between Japan and Thailand introduced on various occasions. In particular, the artifacts under investigation are traditional crafts from Siam (Thailand), swords imported from Japan that were developed as new symbols of authority, as well as products exchanged during the interaction between shogunate-licensed trading ships and Buddhist monks, such as Buddhism, Buddhist art, and Palm Leaf manuscripts. The results of this study were made widely available to the public in the form of a survey report publication (141 pages), a special exhibition and its exhibition catalogue, Thailand: Brilliant Land of the Buddha (Kyushu National Museum: April 11-June 4, 2017; Tokyo National Museum: July 4-August 27, 2017, as well as a keynote speech at the special exhibition symposium.

研究分野：美術史

キーワード：タイ 文化交流 日タイ間

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまで特にタイにおける古代彫刻を調査研究し、基礎データ集積を積極的に行ってきた。調査の中で、タイでは日本古美術の現存点数が比較的多いにもかかわらず、その実態はほとんど明らかにされておらず、現地からその価値を求められることが多々あり、悉皆調査をとおして個々の作品を正しく評価することも課題となっていた。2012年に基盤研究(B)「タイにおける異文化の受容と変容 13世紀から18世紀の対外交易品を中心として」が採択され、交易品の悉皆調査の中でタイに残る日本古美術に関する調査も行ってきた。本研究は、前回採択された科研の成果を踏まえ、特に日タイ交流に関する資料に焦点をあて、調査を継続、研究を行うこととした。例えば、従来、交易品としての日本刀が、タイ社会の中で権威の象徴として機能したことは知られてきたが、現存作例に即した詳細な調査は皆無だった。一方、日本に伝わったタイの文物についても、陶磁器、漆器、響銅鉢、更紗など、日本文化、特に茶の湯の中で新たな意味をもって長く伝えられてきたものは数多い。しかしながら、タイに伝わる日本美術同様、タイ美術としての正確な評価、情報は未だ十分に示されているといえなかった。

前回からの研究過程で、継続したデータの蓄積と、詳細な調査の繰り返しによるデータベースの強化は、これまで見過ごされていた文化財を活用していく上で、日タイ双方にとってきわめて有効であること。また、近世にはじまる日タイの文化交流から生まれた伝統・慣習が、近現代においても生きていること。さらには、日タイの長い交流の歴史を新しい視点から見直すための素材の獲得により、統合的に研究していく必要性を痛感し、今回の研究に至った。

2. 研究の目的

第一に、前科研に引き続き日本におけるタイ美術、タイにおける日本美術に関する情報を集約し、全容を一望できる基礎データを構築する。第二に、調査対象を文化財として評価、編年を行うとともに、それぞれの社会でどのように受容され、また展開していったか、制度、思想的側面を含む社会的背景から明らかにする。第三に、本研究は日タイ両国の研究者によって進め、研究成果を両国で共有するとともに、展覧会として広く一般に公開する。

3. 研究の方法

本研究は、九州国立博物館が中心となり、各地の研究機関、タイ文化省芸術局、研

究協力者と連携して調査研究を行う。国内の調査では、各地の博物館に關係資料に関する情報提供を依頼し、情報蒐集に努める。タイ国の協力機関に対しては日本国内の調査情報を公開し、調査資料について意見交換を行うなど相互補完的に研究成果を蓄積する。タイ国内の資料調査に関しては、共同で現地調査を行うとともに、本科研の目的のひとつである展覧会開催を通して資料を日本に輸送し、日本国内の機材を用いて科学調査を行い、調査成果を両者で共有する。

4. 研究成果

研究分担者・協力者各自がテーマにあわせてチームを組み現地調査を行ない、日タイ合同調査の場合は、同時期に研究会を開催し意見交換を行った。

日本におけるタイ關係資料については、これまで知られている陶磁器、漆器、響銅鉢、更紗などのほかに、アユタヤーとの交易に関わった朱印船貿易家、さらに明治以降の仏教僧の交流を通して、日本に伝わった仏像や仏画、貝葉写本なども美術史の側面から文化財調査を行い、その成果は研究発表、報告書等にて報告した(原田あゆみ・小泉恵英「釈興然請来仏像・仏画等調査報告」)。

タイにおける日本關係資料に関しては、タイでは日本製と考えられているが、実際には中国製のものなども含まれることが明らかとなった。また、調査資料のうち日本から影響を受けた刀剣、日本に多く伝来するタイの響銅、漆器、シャム手更紗などを後述する展覧会にて借用することが可能となった。なお、タイ王室が寺院建造のため日本に発注して製作された螺鈿製の扉窓(ワット・ラーチャプラディット布薩堂)の調査、借用は、東京文化財研究所の協力により実現した。

日本關係資料のほか、タイにおける中国商人の活動を裏付ける資料として鉄鐘の調査研究(望月規史「タイの鉄鐘について」)を、日本にも多数伝来するシャム手更紗については(佐藤留実「タイ様式文様更紗調査について」)にまとめた。また、貝葉写本の包装調査も行い一部の写本年代と包装製作年代がほぼ等しいことが明らかになった。ほかに、関連資料の調査としてワシントンのスミソニアン博物館、ベトナムの港市ゲアンの調査も実施し、その成果は研究発表や報告書としてまとめた(末兼俊彦・望月規史「スミソニアン博物館調査の報告」、藤田励夫「ベトナム又安省興元県復礼社の神勅」)。

こうした調査研究の成果は、2017年の日タイ修好130周年記念として開催した展覧会「タイ～仏の国の輝き～」(九州

国立博物館：2017.4.11.～6.4. 東京国立博物館：2017.7.4.～8.27.)において、展示や関連シンポジウム、また展覧会図録で広く公開した。また、九州国立博物館および浦添市美術館で2016年に開催した『きらめきで飾る - 螺鈿の美をあつめて - 』にも本科研の成果の一部を紹介した。さらに、タイと日本に類似資料が伝わることから輸入染織史料である「端物切本帳」画像データベースを構築し、デジタルデータとして関係機関に配布した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

- (1) 藤田励夫「ベトナム又安省興元県復礼社の神勅」原田あゆみ(編)『日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究成果報告書』(以下、『日タイ間統合的研究』と略記) 査読無、(2018) 9-14
- (2) 原田あゆみ・小泉恵英「釈興然請来仏像・仏画等調査報告」『日タイ間統合的研究』 査読無、(2018) 15-76
- (3) 山田均「仏舎利の分与に関する若干の問題点」 査読無、(2018) 77-81
- (4) 日向伸介「近代タイにおける考古学行政の導入過程：第一次世界大戦と「古物調査・保存に関する布告」(1924)を契機として」 査読無、(2018) 82-98
- (5) 望月規史「タイの鉄鐘について」 査読無、(2018) 99-107
- (6) 末兼俊彦「タイ文化財に対する科学分析について」 査読無、(2018) 108-113
- (7) 佐藤留実「タイ様式文様更紗調査について」 査読無、(2018) 114-119
- (8) 小西郁「端物切本帳画像一覧の作成と画像データベースの構築について」 査読無、(2018) 120-126

〔学会発表〕(計12件)

- (1) 原田あゆみ、小泉恵英、望月規史「タイと日本 境界を越えて」特別展「タイ～仏の国の輝き～」学術交流記念講演会(九州国立博物館ミュージアムホール 2017.4.12.)
- (2) 日向伸介、原田あゆみ、小泉恵英、望月規史、末兼俊彦、猪熊兼樹「日タイ修好130周年記念特別展 タイ～仏の国の輝き～ 文化財から考える日タイ関係」日タイ学会第19回研究大会(法政大学 2017.7.8.)
- (3) 原田あゆみ、小泉恵英、猪熊兼樹、末兼俊彦「タイの仏教美術と王権」特別展「タイ～仏の国の輝き～」開催記念国際シンポジウム(東京国立博物館平成館大講堂 2017.7.12.)
- (4) 續伸一郎「堺出土貿易陶磁器時期と様相」

(永井正浩氏と共同)「貿易陶磁器研究の現状と土器研究」第35回中世土器研究会(同志社大学良心館 2017.1.7, 1.8.)

- (5) 原田あゆみ「九州国立博物館とタイ芸術局の学術交流事業について」日本タイ学会第18回研究大会(九州大学・2016.7.2.)
- (6) 日向伸介「近代タイにおける考古学行政の導入過程：第一次世界大戦と「古物調査・保存に関する布告」(1924)を契機として」日本タイ学会第18回研究大会(九州大学・2016.7.2.)
- (7) 原田あゆみ「日本に伝わるパーリ語貝葉写本と包裂について」第3回日タイ間の文化交流に関する研究会(堺市博物館 2016.10.31.)
- (8) 望月規史「タイの鉄鐘について」第3回日タイ間の文化交流に関する研究会(堺市博物館 2016.10.31.)
- (9) 末兼俊彦・望月規史「スミソニアン博物館調査の報告」第2回日タイ間の文化交流に関する研究会(静岡大学 2015.11.22.)
- (10) 續伸一郎「都市遺跡における貿易陶磁器研究の現状 16～17世紀初頭を中心として」博多山口大分三都市研究会(堺市博物館 2015.11.11.)
- (11) 原田あゆみ「日タイ修好130周年記念特別展に出陳する日タイ関係資料について」第1回日タイ間の文化交流に関する研究会(九州国立博物館 2015.7.4.)
- (12) 續伸一郎「タイの古陶磁について」企画展「タイの古陶磁」(堺市博物館学芸講座 2015.4.1.)

〔図書〕(計3件)

- (1) 原田あゆみ・小泉恵英・望月規史・末兼俊彦・猪熊兼樹ほか(九州国立博物館・東京国立博物館・日本経済新聞社文化事業部 編) 日本経済新聞社、『日タイ修好130周年記念特別展 タイ～仏の国の輝き～』(2017)、271ページ
- (2) 原田あゆみ(編) 九州国立博物館、『日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究成果報告書』(2018)、141ページ
- (3) 原田あゆみ・小西郁(編)、九州国立博物館、『端物切本帳画像一覧 九州国立博物館本』(2018)、871ページ(デジタルデータ)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原田あゆみ (HARADA Ayumi)

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部企画課・室長

研究者番号：20416556

(2)研究分担者

小泉 惠英 (KOIZUMI Yoshihide)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部・部長
研究者番号：40205315

望月 規史 (MOCHIZUKI Norifumi)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部文化財課・研究員
研究者番号：80635251

末兼 俊彦 (SUEKANE Toshihiko)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸研究部・主任研究員
研究者番号：20594047

山田 均 (YAMADA Hitoshi)
名桜大学・国際学部・教授
研究者番号：10289671

日向 伸介 (HINATA Shinsuke)
静岡大学・国際連携推進機構・特任助教
研究者番号：60753689

(3)研究協力者

猪熊 兼樹 (INOKUMA Kaneki)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・主任研究員
研究者番号：30416557

藤田 励夫 (FUJITA Reio)
文化庁文化財部美術学芸課・主任調査官

續 伸一郎 (TSUZUKI Shinichiro)
堺市博物館・学芸課・主幹兼学芸係長

佐藤 留実 (SATO Rumi)
公益財団法人五島美術館・学芸員

小西 郁 (KONISHI Iku)
九州大学大学院・芸術工学府・博士課程

高田 知仁 (TAKATA Tomohito)
サイアム大学・教養学部日本語コミュニケーション学科・学科長